

生分解性マルチ(コーンマルチII)の効果確認試験

JAめまんべつ

柴田 健一



①試験品(コーンマルチII)2016.6.16



②試験品(コーンマルチII)2016.6.16



③慣行品(カエルーチ)2016.6.16



④慣行品(カエルーチ)2016.6.16



⑤慣行品(カエルーチ)2016.9.13



⑥試験品(コーンマルチII)2016.9.13

試験目的	生分解性マルチの効果確認試験						
試験作物及び品種	南瓜(くりゆたか)						
試験資材及び数量(規格)	コーンマルチII(0.015mm×95cm×400m) 透明 2本						
慣行資材	カエルーチ(0.018mm×95cm×400m) 乳白						
栽培方法	<table border="1"> <tr> <th>定植日</th> <th>収穫日</th> </tr> <tr> <td>慣行区:6月14日 試験区:6月14日</td> <td>慣行区:9月14日 試験区:9月14日</td> </tr> </table>	定植日	収穫日	慣行区:6月14日 試験区:6月14日	慣行区:9月14日 試験区:9月14日	【栽植密度】 畝幅:350cm 株間:70cm	
定植日	収穫日						
慣行区:6月14日 試験区:6月14日	慣行区:9月14日 試験区:9月14日						
資材使用期間	6月14日~9月14日	試験区面積	760㎡				

試験結果

(1)作業性について(慣行品との比較)

- ・両マルチとも機械は同設定でマルチを敷くことができた。(テンション・スピードなど)
- ・両マルチとも裂けることなく作業がスムーズにできた。

(2)作物の生育状況または、収穫への影響

- ・定植後の干ばつにより初期生育が遅れ、8月に生育が追い付いてきたが高温で花が落ちた。
- ・さらに、大型台風(8月)で湿害が発生し、収量が減少した。(腐敗が進み、大きくならない)
- 上記の2点により7割作であったが、生分解性マルチの差による収量差は見られなかった。

(3)資材の強度・耐久性・崩壊性について

- ・展張後の穴あけ時、カエルーチでは裂けが若干発生していたが、コーンマルチIIでは裂けがなかった。
- ・3ヶ月後の生分解性マルチを手で触った感触は、カエルーチはパリッとしており、コーンマルチIIは粘り気があった。
- ・土中の分解や地際の分解スピードは両マルチとも大きな差がなく、風で飛散することはなかった。

(4)雑草・病害虫の発生について

- 両マルチとも種子消毒や防除もしていないため、うどんこ病や雑草が発生していた。

モニター感想

- ・マルチの強風による破れを最小限にするため、展張時に土かけを多くし、展張後も土を盛り工夫している。
- ・カエルーチと比較すると、厚さがあるように感じた(硬いイメージ)
- ・カエルーチと比較すると、縦裂けがなかった。(粘り気があり、破けにくいイメージ)
- ・展張時の縮みも同じで作業の大きな差はなかった。

JA担当者の感想(資材課 西澤氏)

- ・今後の価格次第ではあるが、作業性に問題はなく、分解スピードも遜色ないとのことであれば、広く紹介し、進める価値はあると感じた。
- ・製品が薄くなれば、重量も若干軽くなるため、作業効率の面についても良いと思う。

今後の使用について

継続して使用したい。
コーンマルチIIは今回の試験で問題ないことが分かったため、慣行品の価格より安ければ、農協として取扱いをしていきたいと考えている。

1 高温対策

2 害虫忌避効果

3 調光フィルム

4 クリンテート

5 機能性マルチ

6 育苗資材

7 不織布

8 その他